

環境マネジメントシステム

持続可能な社会の実現に貢献するために、計画・実行・監査・見直しのPDCAサイクルを整え、環境経営を推進しています。

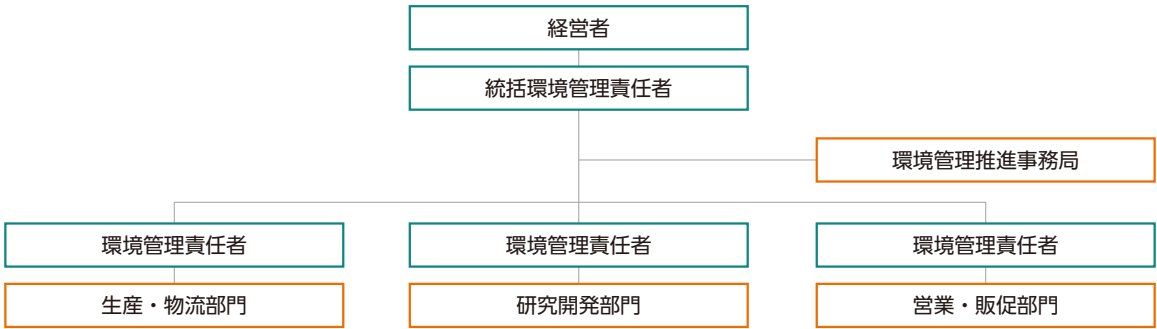
組織体制

■ 環境マネジメント体制の構築

当社では、環境保全活動を継続的に実施し、環境パフォーマンスを改善するために、環境マネジメント組織を構築し、体制を整えています。各部門に環境管理責任者を置き、活動の進捗状況を管理し、その結果を、統括

環境管理責任者に報告しています。統括環境管理責任者は状況を踏まえて検討し、環境管理責任者に改善すべき点を指示したり、定期的に統括総合マネジメント評価会議を実施することによって、環境保全活動のスパイラルアップを図っています。

環境マネジメント組織図



ISO14001取得の状況

■ ISO監査

環境マネジメントシステム「ISO14001」を2001年4月に認証取得し、全社において環境保全活動の取り組みを実施してきました。2024年度は、ISO統合(品質／環境)マネジメントシステムの定期監査を受審し、引き続き認証が有効であると認められました。



認証済みISOロゴ
※一部間接部門を除く全事業所で取得

■ 環境監査

環境活動における環境マネジメントシステムの定着・運用・維持を目的に、全サイトの統合(品質／環境)内部監査を実施しています。事業所間の監査のほか、ISO推進事務局の監査員による監査を計画的に行っています。監査にあたっては独自のチェックリストを監査員に配付・活用して精度を高めています。監査結果は、全社にその内容を通知して、類似する問題の改善を水平展開しています。

環境教育

■ 新入社員研修

全社で環境経営を実践していくために定期的な教育や啓蒙活動を実施しています。

新入社員研修において、ウッドワンの経営理念と環境保全活動の関連など、環境に関する基本的な知識を習得するためのプログラムを盛り込んでいるほか、各サイトにおいては環境に関する規程類の改正ごとに教育を行っています。



新入社員研修

規制遵守の状況

■ 法規制の遵守

個々の事業所では環境法規制一覧表等を作成し、遵守しなくてはならない環境法規を一目でわかるようにしています。また、環境管理推進事務局では、環境情報の収集に努め、改正された法令について速やかに各事業所に伝達しています。さらに、各事業所でも条例・協定等を確認し、環境法規制の更新を図り、法規制遵守に努めています。この結果、直近24年間に於いて、法令・条例等の違反なく活動を進めています。



緊急時への対応

■ 漏洩事故の未然防止

各事業所は、漏洩事故など万一の緊急事態に備えて、作業手順書を整備し、日常的な対応状況をチェックシートによりチェックするとともに、定期的な手順書の評価・見直し・改善を実施しています。

特に、各事業所の塗装工程から発生する溶剤の廃液は、万一事故が発生した場合、土壌汚染や水質汚濁の原因となります。そのため、密閉できるドラム缶に集め、転倒・漏洩防止策を施しています。さらに、これら廃棄物の保管してある場所では、オイルフェンス、土のうなどの備品類を整備し、また、たとえ発見が遅れても海に流出しないように海との境に漏洩防止の壁を設置するなど、事業所外へ廃液が流出しないための未然防止策を実施しています。

■ 定期的な防災訓練の実施

当社では過去の工場火災を教訓に、火災を起こした5月16日を「ウッドワン防災の日」と定め、全事業所で毎年一斉に防災訓練を行い、防災意識の向上に努めています。



防災訓練



消火器による初期消火訓練

事業活動にともなう環境負荷低減のための取り組み

省エネルギーや省資源など、生産や販売などの事業活動にともなう環境負荷の低減に努めています。

環境目標と実績

2024年度は2023年度をベンチマークとして環境目標を設定しています。環境に配慮した製品開発を目的に、PRTR対象物質の対前年度比で1%削減を目標に活動した結果、8.7%減少と目標を達成できました。

使用電力量については対前年比で原単位1%削減を目標に活動した結果、1.0%減少と目標を達成することができました。

環境目的	2024年度目標	実績
環境に配慮した製品開発	PRTR対象物質 2023年度比1%削減	2024年度目標達成 (8.7%減少)
環境負荷の低減	使用電力2023年度比 原単位1%削減	2024年度目標達成 (1.0%減少)

使用電力量の削減

当社では、特に生産工程で電力を多く使用しており、省エネが重要な課題となっています。このため、生産工程におけるロスの改善や、電力消費量の多い集塵機を集約し稼働台数の削減およびコンプレッサーを省エネタイプに変更するなどの対策を実施し、使用電力量の削減に努めています。

参照▶ P.23 重要課題1「環境会計」

事業者クラス分け評価制度

資源エネルギー庁の管轄する、エネルギー定期報告書による事業者クラス分け評価制度において、2024年度は「省エネが優良な事業者」である「Sクラス」の評価を受けました。Sクラス評価を受けるためには、過去5年間でエネルギー効率を1%以上改善、あるいは業界ごとに設定されたエネルギー効率の基準（ベンチマーク）を達成する必要があり、当社としてはバイオマス発電による再生エネルギー生産に加え、生産活動における使用電力の削減による取り組みが評価されました。

有害物質・化学物質の管理

生産活動にともなう環境負荷の発生を最小限にするために、大気や水質などの汚染予防活動を実施しています。そこで、まず各事業所の実態を把握するために、環境側面を抽出し、社内基準の環境リスク基準をもとに評価しています。評価の結果、環境影響が著しく大きいと判断された環境側面に対しては、目的と目標を設定して改善活動に取り組んでいます。また、作業手順書に落とし込み、その基準を遵守することにより、環境負荷の低減と汚染の未然防止に努めています。

■ 大気汚染防止の取り組み

2008年4月より、「廿日市桂公園測定局（一般局）」の開設にともない、本社のある廿日市地区において、光化学オキシダント^{※1}の緊急時発令が実施されることになりました。当社では、広島県環境対策室からの依頼を受け、大気汚染緊急時における排出ガス量等の削減に協力することになっています。

当社のバイオマス発電所から排出する大気汚染物質には、窒素酸化物、硫黄酸化物等があります。その中で、光化学オキシダントの原因となる窒素酸化物を主に削減することになります。SOx（硫黄酸化物）排出量、NOx（窒素酸化物）濃度ともに法規制値以下を遵守していますが、発令を受けて、さらに総量規制を敷き環境汚染の進行防止及び健康被害の発生防止に努めています。

■ 水質汚濁防止の取り組み

生産工場の多くは、海または河川に面しているために、工場排水がそのまま海に流れてしまうと海洋汚染や河川の水質汚濁につながります。従来、排水については自主基準を設けて管理してきましたが、工場から排水を一切流さなければ、水質の汚濁もなくなるため、排水ゼロを目指して活動してきました。現在では、工場から出る排水は、ボイラーの管理された排水とコンプレッサーのろ過された排水のみとなっています。また、万一の漏洩事故等の緊急事態に備えて作業手順書や監督官庁への連絡網も整備しています。今後も現状を維持管理し水質汚濁防止を図っていきます。



ろ過器

■ 化学物質の管理

PRTR法^{※2}の施行を受け、使用化学物質を管理し、排出量や移動量の届出をしています。

環境へ排出している物質で届出対象となった物質は、ジクロロメタンと酢酸ビニルでした。そのほかではホルムアルデヒドの使用量を359kg/年間で削減した結果、PRTRの届出が不要になるレベルまで低減できました。



化学物質の専用保管庫

届出対象物質

(単位：t)				
PRTR番号	化学物質名	使用量 (2022年)	使用量 (2023年)	使用量 (2024年)
186	ジクロロメタン	5.4	3.9	3.6
134	酢酸ビニル	2.4	1.8	1.5
411	ホルムアルデヒド	0.5	0.3	0.4
合計		8.3	6.0	5.5

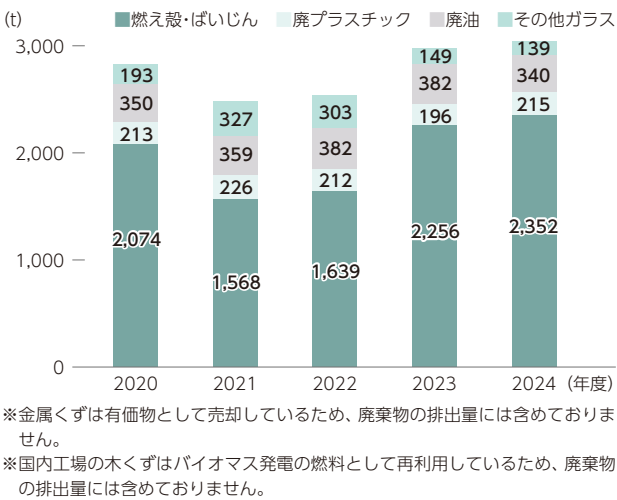
※1 光化学オキシダント：工場の煙や自動車の排出ガスなどの大気中に排出された窒素酸化物や炭化水素が、太陽光線によって複雑な光化学反応を起こして作られるオゾン、PAN、アルデヒドなど酸化性物質の総称で、その約9割はオゾンです。光化学オキシダントによる大気汚染を光化学スモッグといいます。

※2 PRTR法：特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律。第一種指定化学物質の排出量及び移動量が年間1t以上（特定第一種は0.5t以上）の事業者はその物質について国に届出をすることが義務付けられています。

廃棄物削減への取り組み

循環型社会の構築のためには、廃棄物の発生抑制、再使用、資源化の促進が必要です。ウッドワンでも廃棄物の削減の重要性を認識し、抑制する活動を行っています。それでも発生した廃棄物については、熱回収等でリサイクルに利用しています。引き続きリサイクル促進に取り組み、廃棄物の削減はもとより最終処分で有効活用できるように努めます。

廃棄物排出量の推移（直近5年）



輸送時の環境負荷低減

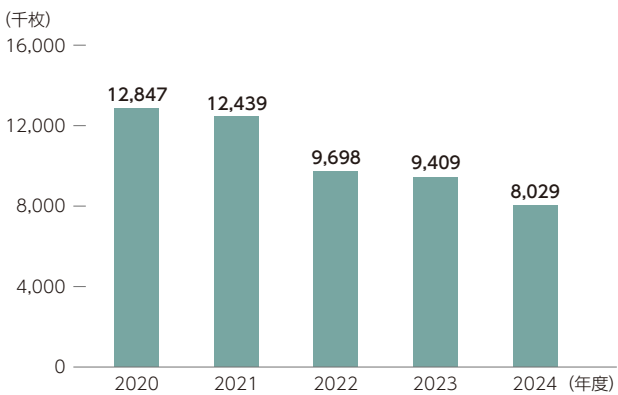
排出ガスの削減

輸送手段としてはトラックが中心ですが、当社では環境への影響を考え、モーダルシフトを推進しています。具体的には、北海道向け、関東エリア向けの一部の輸送は船を利用しています。また、一部を鉄道コンテナへ変更するなど、環境負荷の低い輸送手段に転換しています。物流倉庫での作業においてはフォークリフトを軽油車からバッテリー車に変更することで社内でも環境負荷の低い運搬手段をとっています。また、積み山を一定にしたり、パレット枚数を減らしたりすることでトラック1台当たりの積載量を増やし、トラック台数の削減にも努めています。さらに、ドライバーの安全教育とともにアイドリングストップを励行しています。

ペーパーレス化の推進

ウッドワンは、資源保護、輸送時に発生するCO₂排出量の削減、廃棄物削減のためペーパーレス化を推進しています。ペーパーレスFAXへの切り替え、Web会議の活用、電子帳票システムの導入のほか、2022年には全営業部門の受発注業務の完全ペーパーレス化を実施しました。引き続き紙資源の一層の削減に努めます。

コピー用紙購入量の推移（直近5年）



資源の有効活用

建築中の施工現場において、一般的に階段などは保護シートを用意する必要がありますが、当社では梱包材を有効利用することで省資源に努めています。階段部材の梱包用段ボールは施工現場で開梱後、施工中のキズを防止する保護材として使用できます。また、1本の木を有効活用するため、ニュージーパイン®の原木から製品用として取った後の残材(芯材)を物流用のパレットとして使用しています。このパレットは納品先で有効活用されるとともに、適宜回収して資源の有効活用をさらに進めています。

事業活動と環境への影響

マテリアルバランス

ウッドワンは木材の生産、調達、加工、輸送、施工、回収からリサイクルに至るバリューチェーン全体の事業活動を通じて環境に配慮した取り組みを続けています。利用した資源及びエネルギーの投入量(インプット)と活動に発生した環境負荷物質(アウトプット)を確認することで、環境課題の解決に努めています。

マテリアルバランス（2024年度実績）

